

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

### 【研究課題名】

**膵癌ステージ1の術後再発予後因子についての後ろ向き研究**

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究責任者】 杉山隆（病院長）

【研究代表者】 伊藤千尋（愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科 医員）

### 【研究の目的】

近年画像診断の進歩や術前化学療法の実行によって、膵癌の手術時にステージ1と診断される方が増えています。しかし、膵癌は手術時にステージ1であっても5年生存率が53.9%と報告されており、再発率は低くありません。膵癌ステージ1における再発リスク因子は未だ明らかになっていないため、今回調査することとしました。その結果は今後の診療にも役立てられると考えています。

### 【研究の方法】

（対象となる患者さん）2009年1月から2023年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診され膵切除術を受けられた方のうち、術後の病理組織診断においてUICC第8版に基づき膵管腺癌のステージ1と診断された患者さん

（利用するカルテ情報）手術時の年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA分類、既往歴、喫煙歴、免疫抑制剤の使用の有無、ステロイドの使用の有無、術式、手術時間、出血量、輸血の有無、胆道再建の有無、術前胆道ドレナージの有無、術前化学療法の有無・種類、術後合併症の有無・種類・Clavien-Dindo分類、術後在院日数、術後補助療法の有無・種類・期間、再発の有無、再発までの期間、術後生存日数

術前血液検査結果（白血球数、血小板数、ヘモグロビン、総蛋白、アルブミン、プレアルブミン、コリンエステラーゼ、AST、ALT、 $\gamma$ GTP、ALP、LDH、総ビリルビン、ナトリウム、カリウム、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、AMY、P-AMY、HbA1c、CEA、CA19-9、DUPAN、Span-1、Elastase1、CA125）、  
術後ドレーン生化学検査結果（術後1日目、3日目のドレーンアミラーゼ値）、  
術前CT検査結果、術前PET-CT検査結果、  
術後病理組織診断結果

**【個人情報の取り扱い】**

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<情報の管理責任者> 愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科 伊藤千尋

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

**【お問い合わせ先】**

愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科 伊藤千尋  
791-0295 愛媛県東温市志津川 454  
Tel: 089-960-5327